

ギャラリー 仲摩通信

二〇二五年十一、十二月合併号

あつという間に年の瀬になりました。皆様にと

って今年はどうの

ような一年でし

たでしょうか。

私共の本年は、懐かしい

方々との再会や暫く疎遠になつて

いた海外作家の方から近況報告を頂

くなど久しぶりにご縁が復活した嬉

しい年になりました。

建築やインテリアのアートワークは

長期にわたることが多く、今年は竣

工に向けての準備期間となりました。

来年の通信でご報告申し上げます。

晴天に恵まれた十一月二十四日、

車窓から富士山を拝み、豊田市美術

館までのドライブを楽し

しました。

今号では、豊田市美

術館、建築家会館、展

覧会をご紹介致しま

す。

本年も通信をお読み

くださり有難うございました。

少し早いですが、良いクリスマス

と新年をお迎えください。



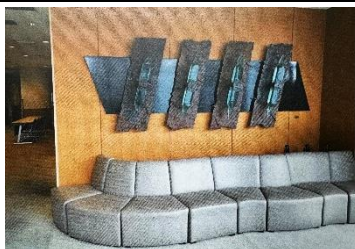
●建築家会館での再会

一九九七年、金子設計の金子修司

先生の監修で神奈川県総合医療会館

に池本一三さんの壁画作品とステン

ドグラスを納めました。(写真左)



神奈川県庁舎に設置され今は取り外

されている多田美波作品(写真左上)

の行く末を案

じた金子先生

から連絡を頂

き、今年二月

に多田美波研

究所にご案内

し、岩本所長

からこれまでの経緯を伺うことが出

来しました。

帰り道、金子先生が建築家会館の

月例会に出席されるとの事で、私も

お供させて頂きました。

※建築家会館は建築家の前川國男先

生を初代社長とし、一九六一年に株



式会社として設立され、株主は建築

家のみで組織され建築に纏わる様々

な活動をしています。

<https://kenchikuka-kaikan.jp>

月例会が毎月開催され、館内のバ

ーでお酒を酌み交わしながら会員相

互の交流の場となっています。

図々しくも門外漢の私がお邪魔しま

したが、花原支配人を始め、会員の

皆様が温かく迎えてくださいました。

その席で三十年

も前にコペツキ

氏の作品を目白坂

STビル(写真

下)に起用してく

ださった建築家、

野生司義光環境設

計の野生司義光会

長に再会しまし

た。野生司先生は現在、建築家会館

の社長(六代目)をされています。

思いがけない嬉しい

再会でした。

翌月、月例会に

伺いました。

すると今度は、

富山市庁舎(写真

下)にコペツキ



際に担当された日本設計(当時)の

林美樹さん(現在はStudio PRANA

代表)がいらしてました。

建築家会館から講演会のお知らせ

を頂くようになり、そこでも懐かし

い方々に再会。いろいろな繋がりの

出会いがありました。

また、月例会にお邪魔するのを楽し

みにしています。

ご興味のある方は私(仲摩)まで

お問合せください。

nakama@nakama.co.jp

TEL/090-1053-6642 仲摩

●豊田市美術館

<https://www.museum.toyota.aichi.jp>

『アンチ・アクシ

ョン、彼女たち、そ

ぞれの応答と挑戦』

展を観に会期終了間

際の二十四日に豊田

市美術館

(写真下)に参りま

した。同館の建物は

谷口吉生氏、庭園は

ピーター・ウオーカ



ー氏の設計で一九九五年に開館しました。駐車場からのゆるい登り坂を進んでゆくと徐々に庭園と建物が姿を現します。その美しさは筆舌に尽くし難く展覧会を観る前から気分が高揚します。

会場では草間彌生、宮脇愛子、多田美波（敬称略）を始めとする十四名の女性作家による力強い作品が並び圧巻でした。展覧会は十二月十六日から来年二月八日まで東京国立近代美術館に巡回します。

来年一月二十五日(日)の九時（予定）
NHK Eテレ「日曜美術館」で紹介されます。再放送二月一日(日)二十時（予定）

ウルスラ・フース個展

去る十月九日から十一月二十八日にドイツのテュービンゲン文化会館でウルスラ・フースさんの個展が開かれしました。シュトゥットガルト美術アカデミー時代から今日まで制作を続けているステンドグラスやパード・ド・ヴェールの彫刻、近作のガラス絵など四十年以上にわたる集大成となる展覧会となりました。
(ウルスラさんからのメールから)

写真は会場風景



駐輪場に設置された作品

美術館情報

「開館十周年記念…めぐりあう今を映す 日本の現代ガラス 1975-2025」

会期…開催中～二〇二六年一月二十五日

会場…二・三階 展示室1・3

閉場日…第一・三水曜日、十二月二十九日～一月一日

日本の現代ガラス芸術の歴史と現在を紹介。一九七〇年代後半から今日に至る激動の五十年の動向を振り返りながら、各時代を代表する作品や、ガラスの新たな可能性を提示する表現を紹介します。様々な巡り合わせの中で生まれる、作家たちの「今」の実感が映し出された作品の数々をお楽しみください。

「コレクション展 バカラ、ガレ、ドーム兄弟・・・、フランス・アール・ヌーヴォーのガラス」

会期…開催中
二〇二六年五月三十一日

会場…展示室4 透ける収蔵庫

閉場日…第一・三水曜日、十二月二十九日～一月一日、五月十三日

五月六日は開場

<https://toyama-glass-art-museum.jp>

◆黄金崎クリスタルパークガラスミュージアム

「井田末乃のガラス

「折々の風景と身近な草花」展

会期…十二月二十日～二〇二六年四月十五日

休館日…四月十六日～四月十七日

会場…企画展示室

<https://kyo-nishizu.jp/crystal/museum/>

【編集後記】

「美術館とは、建築の外部から内部にまで作品と出会う感動を求めて辿る旅の装置である。」——谷口吉生

豊田市美術館の美しさに感動し、HPを開いて見つけた言葉です。

只今金沢建築館で谷口先生の追悼展「谷口吉生の建築—静けさと豊かさの創造—」を開催中です。

二〇二六年一月十八日まで。

本年のご厚情に感謝申し上げます。どうぞ良いお年をお迎えください。

《編集…発行》

〒226-0015 横浜市緑区三保町二〇六〇

ギャラリー仲摩 仲摩マサ枝

nakama@nakama.co.jp

TEL:090-1053-6642 FAX:045-507-3080